

大局の把握が
日々に活きる!

月刊テクニカルレポート

平成27年3月20日発行 3月号「ドル円」

柏葉克俊: ひまわり証券社員 (NPO法人日本テクニカルアナリスト協会会員)

基本スタイル: シンプルな分析をモットーとし、大局を把握する。相場の出発点・着地点の予測を目的とする。

使用テクニカル: 一目均衡表

皆さん、こんにちは。ひまわり証券の柏葉克俊です。本レポートは大局の指針打ち出しを目的として発行しております。1ヶ月後や半年後に本レポートを振り返ったりしながら、何度見ても色褪せないような内容となるよう心掛けて作成しております。なお、一目均衡表による分析を中心としておりますので、その他テクニカルおよびファンダメンタルな部分は一切排除した内容となっております。

さて、今月はドル円相場に焦点を当てたレポートとなります。各項目において出される時間観測や値幅観測に用いる計算例は、6ページ目にまとめておりますのでご参照ください。基本的に日足の分析はお見せしませんので、ちょっと先の話に感じられるかも知れません。しかし、長期展望を持つのと持たないのとでは、日々の相場判断にも違いが出てきますので、これらのポイントは、是非抑えていただきたいところです。それでは今月もお付き合いのほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

上げた相場は高いのか?

提示した押し目買いゾーンは一向に現れず、忍び足で今の水準まで来たドル円をどう見るか。

現在、ドル円のポジションは何も無い状態が続いています。昨年的大幅利食いからいくつか出現した押し目は拾っていません。これは時間を待つ時期として、解釈すべきです。が、それはこれまでの話であって、ここからの買い直しは行って良いのではないのでしょうか。詳細は後述いたします。

直近の動きから見る限り、ドル円の上がり止まった(戻ってしまった)感は否めません。ところが、上がり止まったからといって、今の値位置が高い、という解釈は別です。高い・安いという言葉は、下げた相場に対して「あの時は高かった」というように、過去形として使った方が、その後の相場の見誤りや値頃商いを未然に防げるようになります。

ここで前回レポート9月号において示唆した変化日を思い出してください。2015/05としていました。この変化日にて、ドル円は一旦の天井を打つとしています。この仮説が妥当ならば、まだまだ上昇の余地(時間)があります。ただし、変化日としての時間はあるのですが、上げ3波動としての時間は既に償却されています。ややこしいですね。詳しくは次ページ以降で。



ひまわりFX PRO:ドル円・月足2011/03~

値頃感はほどほどに

繰り返しますが、今の相場水準は高いわけではありません。上がってきたのは事実ですが、まだ高いわけではないという考えもあります。

下記チャートは前ページと同様、ドル円の月足です。A辺りの水準を基準にするから高いと思うわけです。逆にB辺りの水準を基準として考えれば、まだまだ割安だとなるわけです。つまり、上値余地がどれだけあるかが分からないから高いだ安いだなどになってしまうわけで、騰落幅の違いこそあれ翌日の上下確率は50%だと割り切れれば、値頃感などは持つだけ損だとなります。

長くなりますが、上値余地があるのと無いのと、それから表示期間が長いのと短いのと、加えては未来予測期間の長さでも、そのチャートが見せる印象は違ってきます。ですので、デフォルトで表示されるチャート余白に留まらず、別角度からチャートを見てみる癖を付けておくのも仮説を冷静に立てる上では必要かと思われれます。ようするに、値頃感を前提にした仮説は流れに逆らっている場合があるので、あまりよろしくなく、仮説を立てた後に「値頃が邪魔して買えない。」というのは自由です。見たいように見るのが相場なだけに、その点のルールを持つだけで、相場観やトレードに締りが出るとも思います。ご参考まで。

さて、4倍値や上げ3波動における計算値の達成を見せたドル円ですが、次回変化日2015/05までに再度の火柱を立てる可能性もあり、直近の安値決まりを起点としたE値(131.92)が最終目標となりそうです。ここまでを追うならば仕掛け(買い直し)となりますが、時間的には償却されています。2015/05(次回変化日)以降の踊り場を消化した後の再出発から改めて参入するのも戦略です。が、今回はやや冒険したトレードを行ってみます。

ひまわりFX PRO:ドル円・月足1995/03~



次々回の変化日

気の早い話ですが、次々回の変化日について触れておきます。ちなみに2015/05の次回変化日が直近の高値決まりとならないならば、次々回変化日までの上昇もありうると考えます。前述しましたが、時間の償却が起きているので、その場合は75.54を起点とした上昇1波が続いていると考えるほかには無さそうです。

さて、本レポートで述べている変化日に対して稀に思うことは、あまりに長期展望なのでお客様のニーズに全く合っていないのではないかと。果たしてこのような長期目線の方々がどの程度存在するのか疑問ですが、長期視点を上手に短期運用に活かすなどしてもらえれば幸いです。

ということで、チャート上の次々回変化日ですが、概ね2016/12となっております。これまでのレポートと同じような計り方で、少なめの天底に次回変化日からの本数計算も含んでいます。仮にこのまま次回変化日の2015/05近辺が高値決まりとなるならば、次々回の2016/12まで、1年以上の踊り場が続くことになります。ただし、2016/12がボトムとして機能するとは思えず、再出発の1本として機能した方が自然と考えています。つまり、ボトムとしては、それよりも少し早い時期に底打ちすることが考えられます。

では、ここまでの踏まえた戦略に移ります。基本姿勢は買いです。買いといっても打診買いです。大局に崩れは見当たりません。いつ買うのか？それは、リスク許容が出来た時です。

まず第一のリスクは、撤退までの期間です。波動構成としての時間関係は償却されていますが、変化日としての可能性が残されています。次回変化日の2015/05まで、現状から2~3ヶ月間の保有で結果が伴わなかった時、損切りを許容できるかどうかです。

また、次回変化日から次々回までの基本数値を重視するのであれば、次回変化日が2015/08までズレ込むことも考えられますので、そこまで引っ張ってもOKです(2015/08から数えて17本目が2016/12となるため)。今から買い仕込む方々にとっては、攻めの期間が延びることになります。

第二のリスクは、撤退までの値幅です。値は次ページにて。



週足均衡表

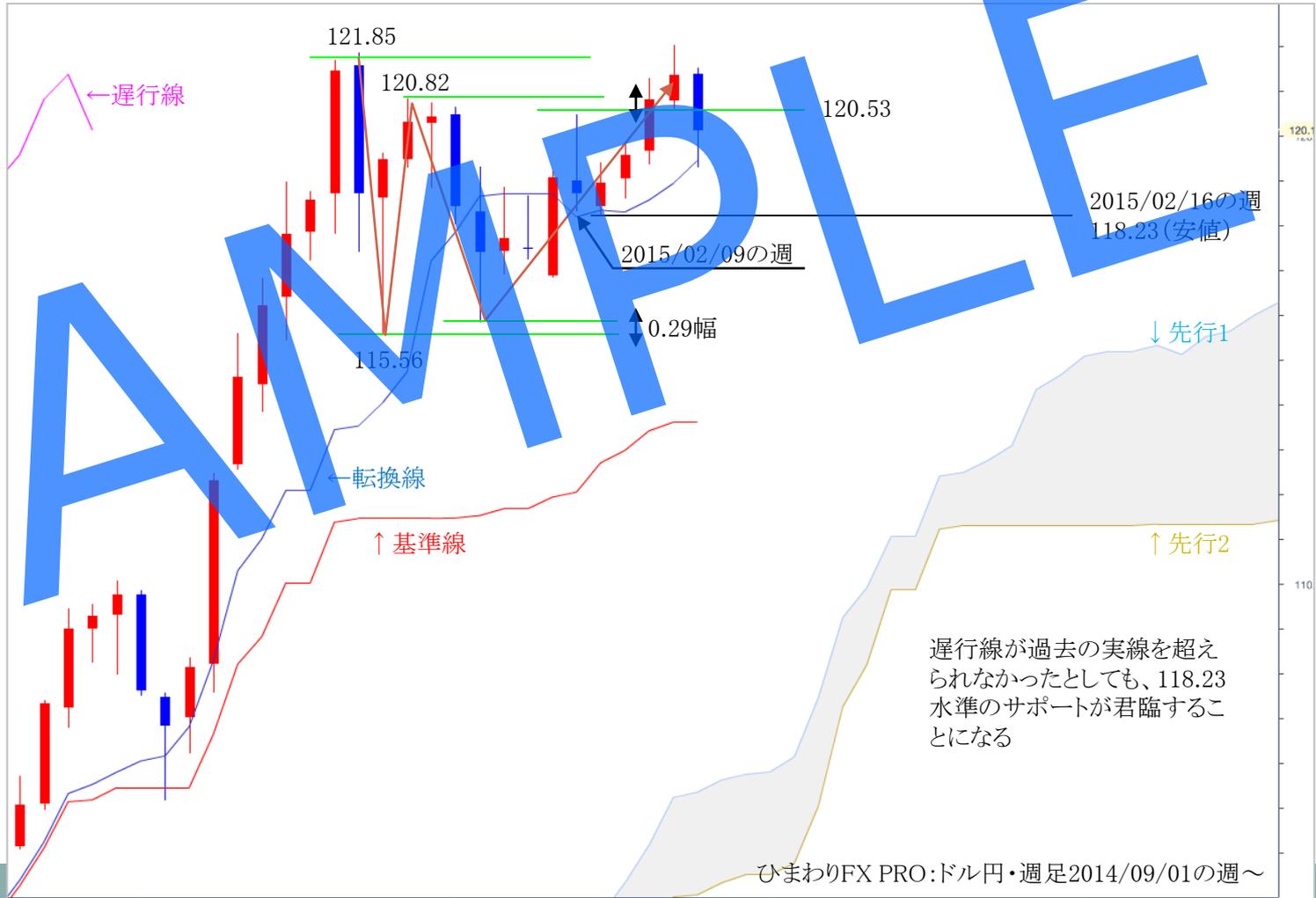
チャート上に記した118.23を週足の終値で割り込んだ時が、撤退です。週足において発生したP波動は、既に破綻しています。120.53というレジスタンスも引かれています。ここまでのリスク許容が出来た段階で打診買いです。目標値は前述したE値の131.92です。繰り返しますが、仮に相場が動かなかった場合も時間経過で撤退となりますので、ダラダラと引っ張るようなトレードにはなりません。ではP波動の解説から。

高値と高値の差分を直近の安値から反し、その逆の反しを交互に行っていくのがP波動です。この繰り返しでサポート&レジスタンスの幅は時間の経過と共に狭まってきます。121.85~115.56をポールとしたP波動は、最終的に120.82から0.29幅を反した120.53をレジスタンスとしていましたが、ここを守り切れずに終わりました。ここで見る現在値は120.53を割り込んだ状態ですが、買い仕込むにはちょうど良い位置かと思われます。

さて、上ヒゲの陰線となった2015/02/09の週ですが、ここで一旦は120.53をトライするも抜けきれませんでした。このプレッシャーに負けることなく、翌週でこの陰線を抑え込みに行ったのは(小陽線)、相当の評価ができます。その小陽線をキッカケにして、休む間もなく120.53を突破しています。つまりキッカケを作った2015/02/16の週を否定された時は、新規に売らずとも保有している買い玉は諦めるべきでしょう。このことから値としての撤退ポイントを導いています。

今回ご提案のトレードは、時間的に長く保有しましょうというものではないので、これまでと異なる印象を受けたかと思われます。上値余地は思いのほかありますが、上げるための波動構成による時間は償却されていますので、ご注意願います。また、変化日自体が前倒しで決まるならば、2015/03が直近の高値決まりともなりますので、この点にも注意が必要です。

2015/04/13の週からは、急速に基準線の切り上がりが始まります。それは118.79辺りで落ち着くので、これも118.23を死守するうえで、買い方の支えとなります。



月足均衡表

月足の均衡表からは、戦略も何も無いと思います。コメントも特にありませんでして、強いて言うなら「逆転現象までが遠い」くらいでしょうか。昨年夏の動きは今後の上昇における序盤であると明記した前回9月号から半年。揉んだとしても早々にトレンドが下方向に変わるほどのドラマは見当たりません。くれぐれも値頃感での売買にはご注意ください。週足における中間波動は上方向に破綻して再出発を果たしているのです。

なお、月足基準線の上昇も、緩やかながら続きます。これに対して直近高値の更新があれば、そこから押したとしてもたかが知れていることでしょう。

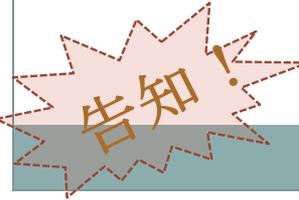
何度もお伝えしますが、上げ下げの相場観が値頃感に起因しては、長くはうまくいきません。

仕掛けの際の心構え

世間で言う常識というものを値動きにあてはめて考えようとすると、大損や取りこぼしに繋がるケースがあります。絶対が無い世界ですので、リスクに対しては常に受け止める準備が大切です。相場の世界では、

折り畳み傘を毎日持ち歩くくらいで良いのです。そして、上がるべき相場も堂々とした足取りで下げるものです。もちろんその場合、買い方は負けます。ただし、撤退ポイントで自分との戦いに勝てば、それで良いのです。長い目で勝利していきましょう。ちなみに撤退のポイントには、引き直しが効くような柔軟性は必要ありません。後から感情(願望)が打ち勝つ隙を与えるだけです。このことから、撤退のラインは一本値で確立させておきましょう。

こんなところで、今月のレポートを終えたいと思います。最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。今月に立てた仮説が、どのように折り合っていくのか楽しみでもあります。総じて偏った考え方ですが、本レポートの考えが多少なりとも皆様のお役に立てれば幸いです。今後の皆様にも実りある投資となりますよう、お祈り申し上げます。==記:2015/03==



本レポートに対する補足のWEBセミナーを3月27日(金)20:00~開催いたします。お申し込みは[こちら](#)
※WEBセミナー申込の締切は、25日(水)23:30までです
内容の重複はございますが、別途、一目均衡表の基礎もお伝えいたします。セミナーを通じることで、本レポートが皆様のトレードの更なるお役に立てれば幸いです。